第３０号　2012年８月１日

カトリック仙台司教区・ カリタスジャパン
東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫　編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
TEL022-222-7371　Fax022-222-7378
1）義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2）支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

３・11 以来、仙台教区には他教区、修道会から多くの司祭、修道者が手伝ってくださっています。そのお１人・森田直樹師にご登場いただきました。さらに、福島・松木町教会の活動を紹介いたします。

教会に灯をともしつづけて 10 ヶ月

大船渡教会主任代行　森田直樹神父

昨年 10 月から大船渡教会主任代行としてご奉仕をさせていただいています。

ご奉仕といっても、まずは「市民になること」。そして、「教会に灯をともし続けること」。

司祭としての奉仕は「人々と共に祈り、人々に寄り添うこと」。毎朝のミサや『教会の祈り』で、大震災・大津波の犠牲者・行方不明者のために祈り続け、被災された方々の心にいつも希望の灯がともり続けるようにと、この地で祈っています。

そして、できるだけ目立たぬようにヒッソリと人々に寄り添うようにしています。毎朝園児に挨拶したり、仮設住宅も含めて持ち回りで毎週行うフィリピン出身信徒が中心となっている「ブロックロザリオ会」に、滞日外国人司牧担当司祭と手分けして回ったりしています。

最後に「キリストのもとに一つの信仰共同体を作り上げること」。出身や言語を越えて、同じ信仰を持つ元気な共同体を応援していくことです。主日ミサ出席者が 40 人程の教会ですが、毎週、お客様やボランティアの方々とも一緒にミサを捧げ、日本語とタガログ語で「主の祈り」を歌っています。また、私が着任してからすでに６名の幼児洗礼があり、ただ今、20 名ほどいる小学生相手にシスターの応援をいただいて、初聖体の準備を行っています。小学３年生以上の子どもたちには、山浦玄嗣さんの「アブラムさんからの手紙」が毎週送られています。でも、これらは本当のところ、キリストご自身がしてくださっている奉仕なのだと思います。

{写真は大船渡教会のアイドル浩志くんと共に}

参加してみたら楽しいな！　感謝！

松木町教会「愛の支援グループ」 鈴木キミ子

仮設住宅でのイベントに初めて参加してくれたおじさん。最後の片付けまでしてくれた。花植えキャンペーンにも来てくれて初めての花植えだと言う。「やったごとねえし、大して好きでもねえんだ」。「ん？」。でも、皆と会えるから参加してくれたのかな。「次は、いつ何あんの」と聞く。いつもボランティアさんの分かち合いを仮設の集会所で行なっている。とても大切。それは、ボランティアさんの気づきがあり、毎度、新たな感動とドラマがある。つい先日そこにあのおじさんも自治会役員の方と一緒に加わっていた。いつも私達が帰るとき、ニコニコと見送ってくれる。

ボランティアさんも、「何もできないが」と言いつつ笑顔を届けて下さっており、楽しかったと言われる。仮設住民の方々も笑顔になり楽しくイベントに参加して下さっている。これは一服の抹茶から始まった「もてなしの傾聴」、ふれあい茶の湯ボランティアの温かな空気である。茶の湯といっても、仮設住民の要望によっては、カラオケ、日帰り温泉、楽しい昼食会、演奏会、がんばっぺ体操、クリスマス会などと季節毎のイベント、よい思い出づくりの企画を、カリタスジャパン、ＣＴＶＣのご支援を頂きながら続けている。

原発事故によって「ふる里に戻りたいが戻れない」。何十キロも離れた慣れない土地に住んでいる被災者の方々と私たちも被災者ではあるが共に歩もうと寄り添うことによって元気をいただくことができる。支え合うってこういうことかな。

松木町教会の支援活動を東京教会管区では昨年の９月から援助して下さっている。沢山のボランティアさんの笑顔が集って下さる。つい先日、私はお礼の心を込めて各教会（とりあえずその一部）を巡礼した。沢山のお祈りと愛のつながりを実感した。犠牲者に安息！　被災者に希望！　支援者に感謝！　祈り歩いた。

福島は原発事故と向き合う支援であり、仮設住民の小さな痛みにも気づくことが出来るようにと祈りながら。　感謝！